

笑いなど)がインタラクションの中で何を実現しているかを分析している。もはや、話し手の発話から引き出される要素を分析しているとはいえない。しかし、話し手は聞き手たちに向けて自分の発話をデザインしており、聞き手の不注意や無理解を検出しながら常に発話を再構成している。聞き手たちは単に発話を聞いているだけではない。ちょっとした振る舞いを通じて、話し手と共に発話のデザインに関わっている。このような振舞いは話し手や他の聞き手に相互認知され、発話デザインのリソースとなる。つまり、聞き手たちの振る舞いは、ことばの産出に関わっているのである。私は、このインタラクションにおける発話を生み出す心的過程を解明したいと考えており、これをインタラクションの言語心理学と呼ぶ。

しかし、こういった複数の振舞いがことばとどういった関係にあるのかを調べようという研究はいま出帆の途についたばかりである。2005年10月に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の研究会としてヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV研究会)(<http://www.kc.t.u-tokyo.ac.jp/VNV/index.html>)が発足した。コミュニケーションにおける言語情報と非言語情報の役割の解明を目指して、私も幹事に加わっている。今後、社会言語科学会、VNV研究会の交流を通じて、インタラクションの言語心理学が発展することを期待している。

■□ [03] 第17回大会のお知らせ □■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

社会言語科学会の第17回大会(東洋大学)は、以下の予定で行われます。

【日時】 2006年3月18日(土)、19日(日)

【場所】 東洋大学 白山キャンパス (〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20)

<http://www.toyo.ac.jp/campus/hakusan.html>

交通: 都営地下鉄三田線「白山」駅から徒歩約5分

東京メトロ南北線「本駒込」駅から徒歩約5分

東京メトロ千代田線「千駄木」駅から徒歩約15分

※ プログラムの詳細は、大会委員会のホームページをご覧ください。

<http://www.wdc-jp.com/jass/17/>

<社会言語科学の未来を作る会 第8回集会のお知らせ>

日時: 2006年3月18日(土) 懇親会終了後

場所: 東洋大学 白山キャンパス付近(懇親会終了後、懇親会場受付に集合)

主催: 社会言語科学会企画委員会

■□ [04] 博士論文情報 □■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

(2005年9月27日~2006年3月10日受付分)

○『対面コミュニケーションにおける視点概念

—発話・ジェスチャー・視線配布の動的構造に基づいて—』

坊農真弓 bono@atr.jp

神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士(学術) 2005年3月

本論文では、人間同士の対面コミュニケーションを対象として、会話内での表現主体(話し手)の心的状態を特徴づける新しい視点概念を提案した。この視点概念の考え方をを用い、現実の会話データの詳細な分析に基づいて、時間に沿って変化する会話の動的構造の構築に言語・非言語情報の統合的・相補的交換が果たす役割を明らかにした。

■□ [05] 第5回徳川宗賢賞受賞者決定 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

このたび、第5回（2005年度）徳川宗賢賞受賞論文として次の2論文が選考されました。

萌芽賞

- 「対面コミュニケーションにおける相互行為的視点
ージェスチャー・視線・発話の協調ー」
『社会言語科学』第7巻2号 2005
坊農 真弓(神戸大学大学院／ATRメディア情報科学研究所)・
片桐 恭弘(ATRメディア情報科学研究所／神戸大学大学院)

- 「“聞いたのはこちらなのに・・・”
ー外国人と身体障害者に対する『第三者返答』をめぐってー」
『社会言語科学』第7巻2号 2005
オストハイダ・テーヤ(筑波大学)

優秀賞 該当なし

各受賞者にそれぞれ賞状と副賞10万円が贈られます。

- (*) 徳川宗賢賞は2004年度より「優秀賞」と「萌芽賞」の2賞になっています。
賞の趣旨は、学会ホームページ
http://www.jass.ne.jp/tokugawa/tokugawa_kitei.htm
をご覧ください。

<授賞理由>

- 「対面コミュニケーションにおける相互行為的視点
ージェスチャー・視線・発話の協調ー」
坊農 真弓・片桐 恭弘

対面コミュニケーションの場では言語表現のほかにジェスチャー、視線などの非言語表現が重要な役割を果たすが、それらが話し手と聞き手相互の間でどのように関連しながら会話が進行しているかを検討した意欲的な論文である。話し手の視点として従来から研究されてきた叙述的視点（登場人物の視点と観察者の視点）に加え、相互行為的視点の存在を導入し、コミュニケーションを単なる情報伝達行為としてではなく、話し手と聞き手による相互的なコミュニケーション行為として重層的にとらえることに成功している。

会話データの定性的分析（分析1：アニメ視聴内容を聞き手に話す会話の分析）および定量的分析（分析2：ポスター発表者が来訪者に内容を説明し質疑応答を行なう様子の分析）を通して、ジェスチャー、視線配布と発話の開始、継続、終了との相互関連性を豊富なデータを用いて実証している。さらに、叙述的側面（対象に志向した箇所）と相互行為的側面（他者に志向した箇所）はジェスチャー構造内に共起するものとし、日本語の文構造におけるモダリティー表現の分析とも関連づけるなど、言語行動を包括的にとらえるアプローチはダイナミックであり、今後のさらなる展開が期待される。

発想、データ採取方法、処理方法など独創的かつ緻密であり、コミュニケーション関連の諸分野に多くの示唆を与える完成度の高い論文であると判断された。

○「聞いたのはこちらなのに・・・」

ー外国人と身体障害者に対する『第三者返答』をめぐってー
オストハイダ・テーヤ

外国人と障害者に対して共通に現れる第三者返答（話し手が、話しかけてきた相手の外見的特徴などにに基づき、話し相手を見捨ててそばにいる第三者に返答する現象）という不自然かつ当事者に違和感を与えるコミュニケーション現象に着目し、その原因や背景となる意識を追及した極めて社会的貢献度の高い論文である。

これまで外国人や障害者などが経験する事例として報告されてきた第三者返答を、5種類の意識調査、インタビュー、実験による多面的なデータとして採取・検討し、現象の構造、原因に詳細な分析を加え、実証的かつ広い視野に立った研究として結実させている。分析にはアコモデーション理論を援用し、この現象を言語外的条件による過剰適応の中に位置づけた。第三者返答の主な原因として、外国人の言語能力に関する経験やステレオタイプ、身体障害者に対する知識不足から生じる障害の性質についての誤解があることを指摘している。

本研究は、均質性や画一性が比較的高いとされる社会において、その社会構成員が異質なものに対して無自覚にとりがちな言語行動に鋭く切り込みつつ、客観的分析のメスを入れている。その現代的テーマとユニークな分析の視点は、高齢者など社会的弱者一般に対する社会現象解明に応用できるものであり、ウェルフェア・リングイスティックスの観点からも高く評価できる。先行研究への目配りも十分であり、分野を超えた研究領域に貢献できる研究として今後の発展が大いに期待される。

<徳川賞を受賞して>

坊農真弓

社会言語学会は、私の「原点」であり「認められたい場所」です。私が初めて学会発表したのも社会言語学会でした。私が初めて学会誌に投稿したのも社会言語学会でした。この度、このリストに、私が初めて論文の賞をいただいたのも社会言語学会という一文が新たに加わりました。受賞のお知らせをいただいたとき、社会言語学会は私にとって「認められたい場所」であることを深く感じました。今回の受賞は私に、これからも研究を続けていくためのパスポートを与えてくれたように思います。論文の共著者で指導教官の片桐先生は、私の突拍子もないアイデアを丁寧に聞いてくださり、論文にまとめるための手段を教えてくださいました。この論文は3度の査読を受けましたが、的確で厳しい中にも筆者らの修正の努力を認めてくださるコメントに、私は育てられました。社会言語学会にかかわるすべての方に本当に感謝しています。ありがとうございました。

片桐恭弘

情報系と人文系の研究をつなげることを意識して、情報技術をうまく利用して人間のコミュニケーション行動分析を行い、そこで得られた知見を情報技術に活用するという研究を進めてきました。しかし、学際的研究はなかなか理解してもらうのが難しいと感じていました。そのような中で、今回の受賞はもっと頑張れという温かい励ましをいただいたものと感謝しています。

テーヤ オストハイダ

故徳川宗賢先生と初めてお目にかかった日のことです。来日したばかりの私が、大阪大学に社会言語学の講座があるのを聞いて、17時過ぎに飛び込み行為で先生の研究室を訪ねました。その失礼を一切気にせず、私の不器用な質問に丁寧に答えられ、閉まりかかった事務室まで案内してくださった先生のお姿はいまだ忘れられません。14年後、その徳川先生にちなむ賞をいただくことになり、これほどの喜びはありません。心から感謝しております。

人の行動を観察するという、私の関心を学問にすることができたのは、多くの方々に大変お世話になったおかげです。今回の研究も例外ではありません。ご指導を賜った真田信治先生と渋谷勝己先生はもとより、貴重なご助言をくださった井出祥子先生、また編集委員長日比谷潤子先生および査読委員の先生方に厚くお礼申し上げます。調査の実施にあたって惜しみないご協力をいただいた永見昌紀氏、松丸真大氏と阿部貴人氏、そして多くのインフォーマントの方々に、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

受賞を励みに、皆様のおかげで芽生えた種を大切に育てていきたいと思えます。

発行：社会言語科学会事務局
E-mail: jass-post@bunken.co.jp
URL: <http://www.jass.ne.jp>

